「古事記」は「アエネイス」と同じように、起源の賛歌を用いて内乱後の新しい政権の正当化を目指す作品ではないか。神代と人間が作り出す時代との間に起こる対立と反響を巧妙に使って、知識階級により創作された叙事詩の一種と考えられる。省略語の混じる文章で記された「古事記」は、漢文を好んだ当時のエリート層には価値を認められなかった。一千年以上を経て再発見されたものの、「古事記」自体のなかにある文学作品としての性格は見失われ、日本文学史における本来の地位を取り戻すことがなかったのである。

本年は、現存する日本最古の歴史書「古事記」が編纂されてから一三〇〇年目にあたります。「古事記」のフランス語翻訳者で、フランスにおける日本古代史研究の権威でもあるフランソワ・マセ教授が、「古事記」の日本文学史における位置づけについて、ギリシャ神話「アエネイス」との比較を交えて講演します。

平成24年度国際交流基金賞
INALCO日本語・日本文化学部・大学院受賞記念講演会

# 「古事記〜忘れ去られたアエネイス？ ——フランスからの提言」

Le *Kojiki*, une *Énéide* longtemps oubliée? : hypothèse d'un chercheur français


## フランソワ・マセ | François MACÉ

フランス国立東洋言語文化大学（INALCO）日本語・日本文化学部教授


## 2012.10.11（木）18:30〜20:00（開場18:00）

会場◎日仏会館1Fホール
主催◎国際交流基金、日仏会館フランス事務所、公益財団法人日仏会館
司会◎日仏会館フランス事務所長　クリストフ・マルケ
言語◎フランス語（日本語同時通訳つき）
終了後に簡単なレセプションを開きます。

参加申し込み | contact@mfj.gr.jp

**フランソワ・マセ（François MACÉ）**
1947年生まれ、パリ大学卒業。
専攻は宗教史、思想史、文化人類学
1989年〜INALCO日本語・日本文化学部教授、
1990〜1997年学部長
1993年〜1994年京都大学、
国際日本文化研究センター等で客員教授
1990年〜フランス日本研究学会会長、
2005年〜フランス日本語教育委員会委員長
著作に『上代日本における死と葬送儀礼』（POF、1986年）、
『古事記神話の構造』（中央公論社、1989年）、
『文明ガイドー江戸時代の日本』
（美枝子・マセと共著、ベール・レートル、2006年）など

**日仏会館1Fホール**
東京都渋谷区恵比寿3-9-25
Tel: 03-5421-7641
www.mfj.gr.jp
●
JR恵比寿駅東口より徒歩10分

国際交流基金設立40周年

JAPANFOUNDATION